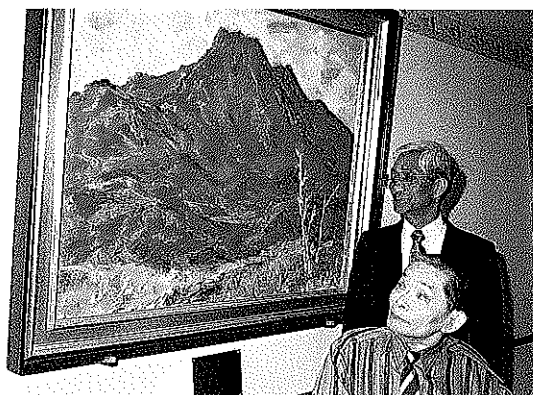
	温泉郡川内町則之内甲2819 身体障害者療護施設 三恵ホーム TEL (089) 966-3555	利用者状況 総数 804名 男 54名 女 26名 平均年齢 56歳 デイ・サービス 登録者 110名
	デイ・サービスセンター めぐも TEL (089) 966-6422	

石 錠

残 雪

峡 の 遥 か  
の 里

井上敏坊



久 保 収 三 氏

一九三七年生まれ  
(大洲市出身)

現在 近代日本美術協会運営委員

愛媛県美術会理事

プレゼントは「霊峰石錠」

利用者 井上敏坊

「敏男君、何か欲しいものはないか？」この一言が久保君の絵をここに飾ることになるとは...

あれは忘れもしない平成九年十二月のこと、四十年ぶりに大洲高校時代の同窓生七名が、三恵ホームの私の所へ尋ねて来てくれたのです。きっかけは、その内の一人神崎純子さん(大洲市役所福祉課勤務)の呼びかけによるものでした。私にすれば予想もしていなかったことでしたので、それはもう言葉に言い表せない程の感激でした。そしてその中に、今回私の無理を快く聴き入れてくれたほん友の久保君も含まれていたのです。

高校時代、私は太田君という友人と毎朝久保君の家に寄って、学校へ通うのが日課でした。彼はとても朝寝坊で、私たちが声をかけるとやっと起きて来て、慌てて支度をするのが毎日のパターンになっていました。そんな呑気な彼でしたが、この当時から絵を描くことには非凡なものをもっており、よく抽象画のような絵を描いていたのを今でも憶えています。

そんな昨秋のこと、我々の自治会で玄関に飾る絵を施設に寄贈しようという話が役員間で持ち上がりました。ただ問題は費用です。自治会にそんな予算があるはずもなく、全員が途方に暮れていた時、ふと思い出したのが、昨年暮れ、みんなが会いに来てくれた時の久保君のあの一言(文頭)でした。

現在彼は長年の教員生活を終え、今は石錠山をモチーフに自宅アトリエにて創作活動をしているとのことでした。私はダメ元で職員さんを通じて久保君にお願いしてみました。すると彼は早速絵の見本をたくさん持って、私の所へ会いに来てくれたのです。

「よう云うてくれたね。親友として嬉しかったよ」その時彼が私に言ってくれた言葉でした。そして私の希望した絵(上の写真)を何の躊躇もなくプレゼントしてくれたのです。それは「秋麗」(県展入選作品)というあの霊峰石錠を描いた五十号もの大作でした。

現在この絵は私達の施設の正面玄関に展示され、施設に出入りされる多くの人たちに観賞して頂いております。私には彼に何のお礼をすることも出来ませんが、せめてこの紙面を借りて久保君や当時の仲間達に改めて心からお礼を云いたいと思います。「本当にありがとう...」そして私の人生に、このようなすばらしい友人を御与え下さった神様にも心から感謝したいと思えます。

どうかこの絵が、皆さんに親しまれ、たくさんの人達の交流の場のシンボルとなることを願ってやみません。「秋麗」の前にて...